

特集——地域の資産を活かした
エポリキュレーション



大島 芳彦

Oshima Yoshihiko [株式会社ブルースタジオ 専務取締役・クリエイティブディレクター・建築家]

豊かな社会資産を再構築する
まちのリノベーション

CONTENTS

特集：地域の資産を活かしたエボリューション

SPECIAL INTERVIEW	
大島 芳彦 氏	1

SPECIAL EDITION	
morinekiプロジェクト	5
福岡大名ガーデンシティ	7
JR西日本 大阪環状線 京橋駅	9
星空保護区®認定推進プロジェクト 福井県大野市	11
福井県立恐竜博物館	13
パナソニック エナジー株式会社 二色の浜オフィス	17

TOPICS	
パナソニック汐留美術館	19

くらしは文化	
帝国ホテル・ライト館	21

※本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：福井県立恐竜博物館

建築を貴重な社会資産と捉え、改修しながら長期的に利用する考え方が主流になっている。リノベーションは一般に知られる言葉になり、それは住宅だけでなく、大規模施設やまちづくりにまで広がっている。リノベーションをRe Innovationと捉え、先人から与えられた社会環境のストックをこれからの時代にどのような活かすかを追求されてきたのが、株式会社ブルースタジオの専務取締役大島芳彦氏。約20年間、リノベーションを旗印に、遊休資産の再生や価値最大化を図る建築企画・設計・コンサルティングに関わられてきた大島氏に、建築やまちづくりのリノベーションに重要な視点についてたずねた。

大家さんの困り事は日本の社会課題だった

― なぜ、リノベーションを手掛けられたのですか。

東京都中野区で不動産賃貸業をしていた父が1990年代後半になると、家賃滞納や空室などで、ぼやき始めました。私が学生の頃は「家業を継ぐ必要はない」と言っていたのに、「建築の仕事をしているなら、少しは協力してくれ」と言い出す始末。そこで、所有する約10坪のマンションを見に行きましたが、私の世代感覚からすると時代遅れでした。株式会社ブルースタジオは、武蔵野美術大学建築学科の同級生だった大地山 博が1998年に設立したグラフィックデザイン会社ですが、彼とは卒業後も日本の不動産商品が画一的で面白みがなく、買った途端に価値が下がる新築至上主義は問題だと話していました。彼は卒業後広告畑でクリエイターとして活躍していたので、不動産業界のクリエイティブのクオリティを何とかしたいとも思っていたようです。そんな時に手掛けたのが、父の所有する10坪2DKの賃貸マンションの価値再生でした。そこで彼と協力して、築後30年を経て地域社会のニーズも変化しているのだから空間も変えるべきだと、1LDKのシングル向けの広めの間取りにリノベーションし、仲間のカメラマンと一緒にインテリアもコーディネートして撮影しました。当時、その部屋の家賃は月9万円を下回っていましたが、12万円を超える値段で不動産屋さんに持ち込むと、私たちのイメージにふさわしいライフスタイルの借り手がすぐ見つかりました。わが家の賃貸業の経営課題は、全国のいたる都市が人口減少の時代に同じように抱える社会課題そのものなのだと理解したのです。この課題をリノベーションという旗印で解決していこうと、公共工事や海外プロジェクトに携わっていた設計事務所を退職し、2000年にブルースタジオを一級建築士事務所として登録し、今に至る事業を開始したのです。新しいブルースタジオは「コトとモノと時間」をデザインする会社です。「コト」はブランディングやマーケティング、グラフィックで、「モノ」は建物や空間。「時間」は価値を持続するためのマネジメントです。場や空間の価値はそれを維持することが一番重要で、消費されてはいけません。私たちがリノベーションの旗印を掲げた頃は、不動産証券化の流れで、プロパティマネジメントやアセットマネジメントという考え方が日本にもようやく入ってきた頃です。私たちが考えていた「リノベーション」とは、まさにアセットマネジメントだったのです。コト・モノ・時間のデザインを等価と考えたクリエイティブなアセットマネジメントを建築、不動産の世界に広げようと始めたことなのです。

建物で大切なことは「あなた」「ここ」「今」のオンリーワン

ー リノベーションに対する考え方をお聞かせください。

私たちのコーポレートメッセージに「物件から物語へ」があります。これは「物件」と言う言葉が、あまりにも冷たい言葉だと気付いたからです。「物件」という言葉には、その言葉を発する人の立場によって異なる価値観があります。生活者にとっては理想のくらしでしょうし、不動産屋さんにとっては商品価値。それを設計した建築家にとっては作品価値であり、金融機関にとっては担保価値であったりします。それぞれの人が「物件」と簡単に口にしますが、見ている価値は全く異なります。このすれ違いや一貫性の欠如が、建物やまち、不動産の価値を最大化する上で、一番の障壁になっています。だから「物件」を構成する要素を解きほぐし、相互の関係性をリ・デザインし、美しい「物語」を紡ぎ出す必要があるのです。私はクライアントと話をする時、まず「あなた」「ここ」「今」を明らかにしましょうと言います。「あなたでなければ、ここでなければ、今でなければ」ならない理由は何でしょうか。それを端的に整理することにより、「物件」として片付けられないオンリーワンのプロジェクトの「ビジョン」が見えてきます。家なら住む人のプライドに、まちならシビックプライドにつながります。「あなた・ここ・今」の価値、それは人の価値、場所の価値、時間の価値。言い方を変えと、登場人物と舞台装置とシナリオ。つまり、まさに物語としての物件の価値を見出すことなのです。この物語を考えることが重要で、それをしないでものづくりや場づくりをすると、消費されるモノにしかならないと思います。

財政が逼迫した市が挑戦した公民連携

ー 手掛けられたmorinekiについてお話しください。

morinekiは人口が減少し高齢化も進む大阪府大東市が、築後50年以上を経た簡易耐火構造やRC造の市営住宅を、補助金を投入しない民間主導の公民連携型事業モデルで建て替えたプロジェクトです。本来、市営住宅に民間の資力を使うことは考えられない話ですが、モデルとされたのが岩手県紫波町の「オガール」というプロジェクトでした。これは紫波町の郊外にあった公有地を民間主導の公民連携事業モデルで町役場や図書館、体育館を含むホテル、商業施設などを複合施設として開発したプロジェクトです。しかし、人口が減少傾向にある町に公益施設のみをつくってもお荷物になるだけ。そこで、市役所も出資をした民間のまちづくり会社が金融機関から資金調達をし、収益を最大化させながら市営住宅を建て替えるプロジェクト、つまり市営住宅の建て替えに併せてテナント企業を募り、その家賃収入を市営住宅の借上げ賃料に加えて返済に充てていくモデルを構築しました。そのためには、地域がめざす将来の

大島 芳彦 氏

1970年東京都生まれ。2代目大家。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後アメリカ、ヨーロッパに学び大手組織建築事務所を経て、2000年ブルースタジオ参画。発起メンバーでもあるリノベーションスクールでは全国の地域再生プロジェクトに関わり、2015年「日本建築学会教育賞」を受賞。2017年にはNHK「プロフェッショナル」に登場。（一社）リノベーション協議会理事副会長。武蔵野美術大学客員教授。



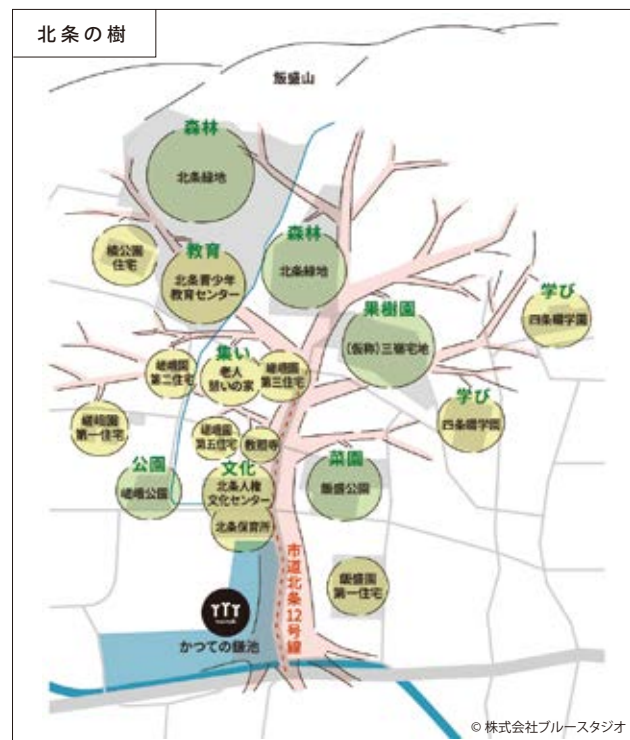
ビジョンに共感し、テナントとしてコミットしてくれる企業を先に募らなければいけません。もともと大東市の財政が人口減少によって逼迫しているということは、住環境はもとより企業や商業者が魅力を感じてテナントになりたいと名乗りを上げるとは考え難い状況であるはずです。そのありえない話を実現したのがmorinekiなのです。

価値を共有するためのまちの姿「北条の樹」

ー どのようにして、それが実現したのですか。

大東市では北条という地域をどのようなまちにしていけるべきかを市民と一緒に考える「デザイン会議」が2016年に開かれ、これをオガールプロジェクトを手掛けた公民連携事業機構がコーディネートしていました。この会議に私も声をかけてもらったのです。デザイン会議に参加するにあたり、私たちは地域のポテンシャルを徹底的にリサーチし、見据えるべき近未来のビジョンを絵にして市民の皆さんにプレゼンテーションしました。この仮説的ビジョンをもとにさまざまな意見を頂きながらブラッシュアップを繰り返し、生まれたのが「北条の樹」というビジョンです。そこには飯盛山という生駒山系の自然があり、東高野街道の道筋だった歴史もある。大阪の都心から車で約20分という距離に、地域の人々が誇りを持って育てていける魅力的なくらしのビジョンが共有されることになったのです。デザイン会議は市民が自分たちのプライドを取り戻していく契機でした。その後も大東市は肅々と事業計画を練り上げていました。市職員の入江智子さんはその間に、オガールで公民連携の事業手法を学ばれていました。そして、ついにその地域のビジョンに

共感し、テナントなろうという企業が名乗りを上げてきました。株式会社ノースオブジェクトという大阪のアパレル企業です。北欧のライフスタイルをコンセプトとした、ブランド理念自体がエシカルな会社で、従業員の働く環境や生活環境もそれに沿ったものになりたいと思われていた社長は、大阪の京橋駅から車で20分もかからない場所に、山と寝屋川の源流があるという豊かな自然環境と文化があることを知り、大阪市内の北堀江から本社移転を決定されたのです。



熱量が伝搬することで持続可能なまちになる

ー 公園や共有地緑地がきれいに組み込まれていますね。

2018年になると、プロジェクトが本格的にスタートし、私たちが実施設計に取り掛かりました。にぎわいを創るには、公共施設でも民間施設でも、コモンやパブリックを担う「共」の場をしっかりとデザインすることが重要です。お祭りや町内会の掃除でもそうですが、「共」の部分の空間や仕組みのデザインが非常に重要です。morinekiでは、市営住宅のエリアと都市公園のエリアとテナントのエリアがあるのですが、その境界は全く不明瞭です。これらを一体のものとして整備することによって、その曖昧な境界には意外性に富んだ活発なコミュニケーションが生まれます。公園に訪れた人が知らないうちに住宅のエリアに入っている。公園を散歩している人が住宅の前を通ると、住人と市民が自然に会話するきっかけが生まれます。



市営住宅の玄関前で交流する人たち

© 大竹 央祐

morinekiの場合、74世帯はその大多数が元の市営住宅に住まわっていた高齢者の方々ですが、最初は、この曖昧であけすけな境界線に戸惑いを持っておられたようです。しかし、公民連携でこのプロジェクトを進めてこられ、現在は運営を担う株式会社コーミンの社長をされている入江さんが現地でmorinekiのくらし方の相談窓口などのケアをされてきたから、皆さんがそれを理解できた。今では、新しい住宅の環境が気に入り、子どもたちも孫を連れて来るようになったと喜ばれています。この曖昧な関係や境界線はmorinekiで働く人たちとの関係も同じように曖昧で、それがいきいきとしたコミュニケーションの源になっています。こうして高齢者が元気になったのは、入江さんやテナントさんたちがこの地域の誇るべきビジョンを共有し、それに基づいたコミュニケーションをいとなみ続けたからでしょう。その熱量がなぜ生まれたのかというと、最初の段階でビジョンをしっかりと構築しているからです。市営住宅に住む高齢者も、ここに本社を移転しようと決断されたノースオブジェクトの社長や役員の方も、最初に市民の皆さんと共感したビジョンが熱量を生み、それが伝搬していったのです。現在、morinekiは近隣のいくつかの大学と連携して新しいプロジェクトもスタートさせようとしています。ビジョンが熱量を生み、それが世代を超えて連鎖していくことによって、まちが魅力的になり、価値を高めて持続していくのだと思います。

ー ありがとうございます。



生駒山系の飯盛山の麓、東高野街道の道筋だった歴史や自然を踏まえたmorinekiプロジェクトは、大東に住み・働き・楽しむ、まちづくり計画のリードプロジェクト
(左下)住宅エリアから飯盛山を望む (右上)住民と行き交う人たちとの交流の場にもなっている (右下)周年祭には近隣の四條畷学園高校のマーチング部やバトン部も参加

地域資産を活かした公民連携による「ココロもカラダも幸せに暮らせるまち」

morinekiは、大東市が市営住宅の建て替えを民間主導のPPP※¹公民連携型で進めた国内初のプロジェクト※²。大東市は「ココロもカラダも幸せに暮らせるまち」をめざしており、そのリードプロジェクトが「北条まちづくりプロジェクト」。morinekiは、そのスタートアップ事業である。市営住宅跡地に、借上げ公営住宅の住宅棟、店舗・事務所棟などを整備し2021年3月にオープンした。これは資金調達から建築、所有、不動産運営を一貫して民間主導で行うスキームで、大東市が出資して設立した株式会社コーミンが

※¹ Public Private Partnership

市からの借地に物件を建て、管理運営を行う。市の建築技師として構想に参画し、現在コーミンの代表取締役である入江智子氏は「住宅エリアは入居者戸数分だけを借り上げにして計画。また、民間事業エリアには理念に賛同いただいた株式会社ノースオブジェクトを誘致して、本社オフィスと北欧の暮らしをテーマにしたレストランや商業施設を整備し、エリアの価値向上をめざした。公園エリアから連続する住宅エリアは、中央の緑の空間を挟んで各住戸の玄関が設けられ、開かれた空間が創り出されている。日が沈むと温かい光色の照明で、とても心地良い空間になる」と語る。

※² morinekiは、令和3年度に「土地活用モデル大賞(審査委員長賞)」、令和4年度に「都市景観大賞(国土交通大臣賞)」、「グッドデザイン賞」を受賞。令和5年度に「大阪都市景観建築賞(大阪府知事賞)」を受賞している。

morinekiプロジェクト

所在地／大東市北条
事業主／東心株式会社
運営／株式会社コーミン
設計監理／ブルースタジオ・石本建築事務所設計監理共同体
オープン／2021年3月
規模／約11,000m²(公園面積約3,100m²含む)



公園エリア入口からレストランを望む



住宅エリアを照らすLEDエントランスライト。
中央の緑の空間を挟んで住戸が並ぶ



北欧の暮らしをテーマにした民間事業エリア。
隣接する歩道は公有地だが境界となるものはない



優しく景観を照らすLEDフットスタンドライト。
2階はノースオブジェクトの本社事務所が入居



(左上)LEDブラケット (右)LEDエントランスライト
(左下)LEDフットスタンドライト



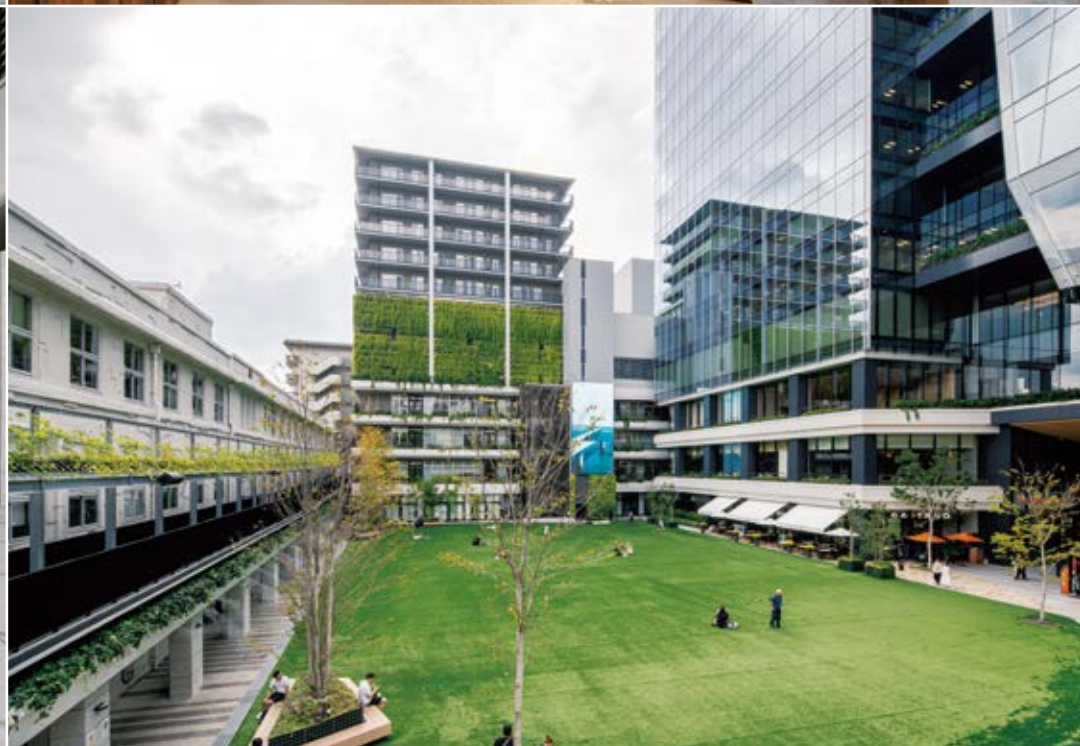
住宅棟の集合住宅用サインポストと
火災報知器、P型1級複合受信機(自動試験機能付)

morineki



主な納入設備

- LEDフットスタンドライト
- LEDエントランスライト
- LEDブラケット
- 電設盤 ● 自動火災報知設備
- 集合住宅用サインポスト
- チャイム ● ドアホン
- トイレ「アラウーノS」



(左上)奥にセキュリティゲートが設置されている、FDGCタワー3階のオフィスエントランス。(右上)LED建築化照明とダウンライトが用いられたBIO SQUARE (2階)エレベーターホール。
(左下)BIO SQUARE (1・2階)の入口に設置されているデジタルサイネージ。(右下)旧小学校南校舎(左)とFDGCテラス(中央)、FDGCタワー(右)に囲まれた、校庭跡地のFDGCパーク

グローバルな人材育成もめざす 「天神ビッグバン」の西ゲートビル

福岡市は、天神地区に民間活力の導入を促す施策「天神ビッグバン」を推進している。その西端に位置するのが、エリア最大級の規模を誇る複合施設「福岡大名ガーデンシティ(FDGC)」。2014年に廃校になった福岡市立大名小学校跡地に、2023年6月にグランドオープンした。最高級5つ星ホテルやグローバルオフィス、カンファレンス施設、商業施設が組み込まれたFDGCタワー、クリニックや創業支援施設などからなるFDGCテラス、オフィスワーカーや宿泊者、地域住民などの交流拠点となる約3,000m²のFDGCパークによって

構成されている。南側の旧小学校南校舎には福岡市のスタートアップ企業支援施設が入居し、各施設が連携することで国内外のチャレンジャーと企業が集い、グローバル展開を福岡から創出するための人材育成拠点となることも期待されている。明治通り側から見ると、周辺建物よりひととき高いFDGCタワーは、左右2つに分割され立体的に雁行し、まち並みに美しく調和するとともに天神地区の新たなランドマークとなっている。また、商業フロア「BIO SQUARE」(1・2階)には、西日本・九州初進出を含む個性豊かな店舗が出店し、共用部に空間グレードの高い照明環境が提供されている。



福岡大名ガーデンシティ

所在地／福岡県福岡市中央区大名
事業主／大名プロジェクト特定目的会社
(積水ハウス株式会社、西日本鉄道株式会社、西部瓦斯株式会社、株式会社西日本新聞社、福岡商事株式会社)
設計／株式会社久米設計、株式会社醇建築まちづくり研究所
施工／清水建設株式会社、株式会社鴻池組、積和建設九州株式会社
グランドオープン／2023年6月
規模／地上25階・地下1階(延床面積約91,400m²)



BIO SQUARE (2階)では、調光システム「ライトマネージャー-Fx」によって自動制御され、昼間(写真左)は明るい照明環境、夜(写真右)には配光を絞って落ち着いた空間を演出している



オフィスエントランスでは、ゲストが予約番号を入力すると、入場シートが発行される



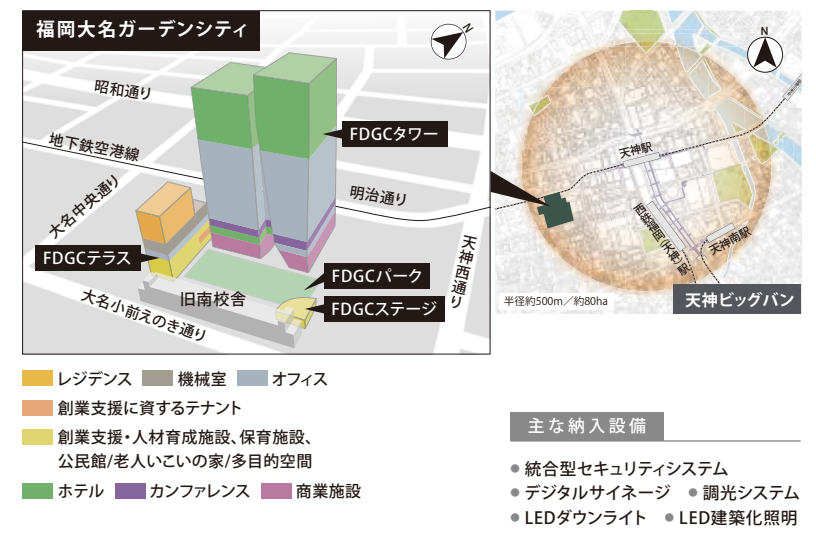
ゲートにシートをかざすと、利用階に合ったエレベーターが呼び出され、番号が表示される



エレベーターホールでは搭乗するエレベーターが点灯してお知らせ



エレベーターと連動し、待ち時間を短縮する統合型セキュリティシステム



福岡大名ガーデンシティ



西口ファサードには水運で栄えた大阪をイメージした円形ガラスを配し、その周囲に大阪環状線を、またJR東西線・学研都市線をライン照明で表現。下部のライン照明は陸運と水運が利用された京街道を表し、ファサード全体で四季やイベントによって異なるダイナミック演出が行われている

二つの「きょう」の架け橋となる 水都大阪を象徴する駅に一新

大阪環状線とJR東西線、学研都市線が立体交差するJR京橋駅は、京阪電鉄や大阪メトロとも接続するターミナル駅。乗降客数がJR西日本の上位を占める駅でありながら、交錯する旅客動線や複雑なバリアフリー経路に加え、老朽化などの課題があった。このため、JR西日本は京橋駅を大阪の「ヒガシ」の玄関口と位置付け、安全で快適な駅空間を創造するためのバリアフリー改修と北口のリニューアルを行い、大阪環状線全体のイメージ刷新も図った。照明計画では、駅を挟んで東西でまちの雰囲気が全く異なることから、

東西のコンコースを「京橋（きょうばし）」の「二つの『きょう』の架け橋」と捉え、調光調色システムを導入。時間帯に応じて色温度を変えることで、朝は先進の東口ビジネス街への出発（今日）、夕方には人情味があふれる西口商店街への誘導（興）を演出している。西日本旅客鉄道株式会社大阪工事事務所のおおまた啓仁氏は「西口コンコースでは、水都大阪に架かる橋をモチーフとした建築意匠に、橋に映る水面をイメージした照明を配置して演出。採用にあたって実物大のモックアップで何度も検証を行ったことにより、これまで暗かったコンコースが明るくきれいで印象的な空間に生まれ変わった」と語る。



東口ファサード

JR西日本 大阪環状線 京橋駅

所在地／大阪市都島区
事業主／西日本旅客鉄道株式会社
設計／ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
建築工事／大鉄工業株式会社
電気工事／西日本電気システム株式会社
リニューアル竣工／2022年3月



水面をイメージして、まぶしさを抑えたSmartArchi ソフトライトの調光調色タイプをランダムに配置し、水都大阪に架かる橋をモチーフとした建築意匠も併せて自動照明演出しているコンコース



SmartArchi フロートライト ラインタイプが採用された改札内の天井



凹凸のある壁面と照明で波紋を表現し、ベンチ下の間接照明で足元を照らしている北口旅客トイレ



8フィートの特注ホーム用LEDベースライト(右列)が線路とホーム間を照らして視認性を確保



アップライトとフットライトによりシンボルツリーを照射している展望デッキ

主な納入設備

- SmartArchi
- アーキライン
- ライトマネージャーFx
- シームレス建築化照明器具
- LEDダウンライト
- ライトアップ演出用コントローラ

LIGHTING STYLE
詳しい照明設計や動画を
ご覧いただけます





「ミルク工房奥越前 六呂師高原の時計台」前には、美しい夜空に影響する光害を抑えた、DarkSky認証道路灯が設置されている（上方光束率0%、色温度3000K以下）

星空保護区®認定推進プロジェクト 福井県大野市

都市の近くで美しい星空が見える 星空保護区®認定をアジア初で取得

2023年8月、福井県大野市南六呂師エリアが、星空の世界遺産と呼ばれる星空保護区®に認定された。部門は「アーバン・ナйтスカイプレイス」で、この部門ではアジア初となる。星空保護区®とは、ダークスカイ・インターナショナル※¹が認定する、暗く美しい夜空を保護するために優れた取り組みを行う地域。「アーバン・ナйтスカイプレイス」は、都市に近く夜間に人工光の影響を受ける中で、暗い夜空を保護する取り組みを行っている地域を対象としたものである。

大野市は、2004年に大矢戸、05年に六呂師高原が

※¹ 光害問題に対する取り組みにおいて、世界的に先導的な役割を担うNPO。米国に本部があり、世界18カ国に60以上の支部を有する。

環境省の「星空日本一」に認定されたことを受け、2018年に星空保護区®認定取得の検討を始め、公共施設の光害対策を推進してきた。2019年、福井工業大学から照明器具の光害対策への協力を依頼されたパナソニックは、上方光束率0%のDarkSky認証防犯灯※²を試験設置。その後、改良を加えた約90台の防犯灯、道路灯を設置するとともに、エリアに上方への光漏れがある照明が1灯でもあると認定されないことから、約300灯が光害対策器具に置き換えられた。

大野市には星空を楽しむ施設も整備されており、星空観光によるにぎわい創出と活性化が期待されている。

※² 2020年1月、パナソニックの光害対策型LED防犯灯・道路灯が日本メーカーで初めてIDA(現DarkSky)の認証を取得



天空の城 越前大野城

©大野市

星空保護区®認定推進プロジェクト 福井県大野市

所在地／福井県大野市南六呂師
事業主／大野市



六呂師高原トロン温浴施設「うらら館」

福井県自然保護センター

光害を防ぐDarkSky認証照明器具や光害対策照明器具によって上方光の光漏れが抑えられた各施設



生活に必要な明るさを確保しながら光害を抑えるDarkSky認証器具に置き換えられた道路灯



地域の安全だけでなく星空も守るDarkSky認証防犯灯



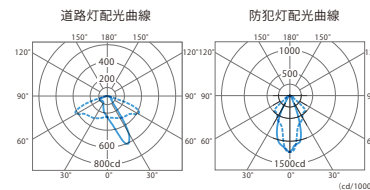
星空を楽しむイベント「星空ハンモック」 ©大野市

DarkSky認証取得 光害対策型LED照明器具



道路灯

防犯灯



主な設備

● 防犯灯 ● 道路灯 ● 軒下灯





世界に誇る恐竜研究の拠点施設を 体験可能型にフルモデルチェンジ

福井県では1989年から取り組んでいる調査の結果、多くの恐竜化石が発見された。これらの貴重な資源を学術研究や生涯教育、観光振興などに活用することを目的に、2000年に福井県立恐竜博物館は開館した。開館以来、20年以上が経過し、国の恐竜研究の拠点となる一方で、大人から子どもまで幅広い年齢層に支持されてきた。来館者数は増加の一途をたどり、北陸新幹線開通により、さらなる増加が予想される。また、夏休みの期間に来場者が極端に集中していたため、従来展示に加え、通年楽しめる新たな体験の提供が求められた。そこで、博物館を機能強化するための増改築が計画された。計画ではエントランスやロビーなどの拡張に加え、レストランやミュージアムショップも改装。本館展示を強化するとともに、新館を増設し、2層吹き抜けの特別展示室や「見える収蔵庫」、実際の研究者の視点で学べる化石研究体験室などを整備し、2023年7月にリニューアルオープン。カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館や中国の自贡恐竜博物館と並ぶ、世界三大恐竜博物館の一つとして、恐竜資源を未来に継承していく。建築としては、故黒川紀章氏の建築哲学の継承をめざしており、既存博物館との調和と発展、周辺環境との共生を図っている。本館の常設展示室は、「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の3つのゾーンから構成されており、約4,500m²という広大な展示室には、50体もの恐竜骨格をはじめとして千数百もの標本の数々、大型復元ジオラマや映像などが展示されている。なお、4層吹き抜けのエントランスホール天井は、火災にも地震にも強い不燃軽量天井材「エアリライト」によって一新されている。今回の増改築により、子どもから大人まで楽しんで学習でき、また研究者も満足できる学術的に裏付けされたミュージアムとなることが期待されている。

◀ (上) 動く恐竜など、展示が一新された本館1階の常設展示室
(下) 新館の吹き抜け空間に浮かび上がる、福井で発見された恐竜と鳥類が配された全長13mのシンボルモニュメント



福井県立恐竜博物館

■増改築工事

所在地／福井県勝山市村岡町寺尾
事業主／福井県
設計・監理／株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
展示施工／株式会社乃村工藝社(本館)
株式会社丹青社(新館)
本館展示リニューアル設計・施工／株式会社乃村工藝社
リニューアルオープン／2023年7月
延床面積／23,600m²(本館16,400m²、新館7,200m²)



拡張されたエントランスロビーを柔らかな光で照らしているSmartArchiのソフトライト



本館とつながる新館「見える収蔵庫」に展示された恐竜を照らすスポットライト



高輝度プロジェクターで3面にCG恐竜映像が上映されている、高さ約9m×幅約16mの特別展示室



可愛い恐竜のグラフィックに包まれ雲形の間接照明も採用されたキッズルーム

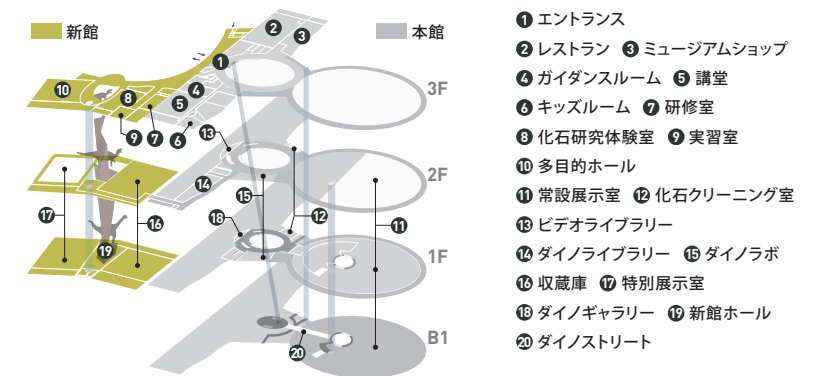


恐竜の骨格標本が展示されているレストラン



大型円形建築照明が配されたミュージアムショップ

福井県立恐竜博物館



主な納入設備

●エアリライト ●SmartArchi ●LEDダウンライト ●LEDベースライト
●LEDスポットライト ●LEDペンダント ●LED建築照明 ●プロジェクター



【午前】左[活性:5000K、水音]右[リラックス:3500K、鳥の声]



【昼休み】[休憩:照度40%、2700K、ジャズ]



【午後】左右が逆転する。左[リラックス:3500K、鳥の声]



【19時〜】[退社推進:2700K、無音]

光(調光調色)や音(ジャズや鳥の声など)による「フレキシブルゾーニング」が採用されている執務エリア。エントランスから伸びる通路は、この執務エリアを2分割し、海が望めるビーチエリアや、実験エリアへの動線となっている

二色の浜の豊かな自然を取り入れ 光と音でゾーニングされたオフィス

2023年9月、工場移転に伴い、関連する品質研究部署のオフィスが大阪府守口市から貝塚市二色の浜に移転した。新オフィスは関西国際空港に近い、目前に大阪湾が広がるベイエリアにあり、豊かな自然環境が特徴。その半面、ワーカーの通勤時間が長くなる課題があった。オフィス移転にあたっては、委員会が組織され、「通勤時間をかけても出社したくなるようなオフィス」がめざされた。約600m²のフロアは内装デザインに浜の自然を取り入れ、大阪湾が一望できる窓側のビーチエリアに向けて通路を配置している。

パナソニック エナジー株式会社 二色の浜オフィス

執務エリアと集中エリア、ミーティングエリアには、調光調色照明とスピーカーの連動制御により、オフィスの部位ごとに異なるシーンを形成する「フレキシブル ゾーニング ソリューション※」が導入されている。これにより、エンゲージメントとコミュニケーションを高め、Well-Beingなオフィスを実現する。オフィス委員会のスタッフは「以前のオフィスは集中したい時も周りの音が聞こえるなど、ゾーニングが機能していなかった。今回は光と音によるゾーニングを行い、自分にふさわしい場所で働けるように計画し、実験的なものもたくさん組み込んだ。結果として何の妥協もせず想像以上のオフィスが実現できた」と語る。

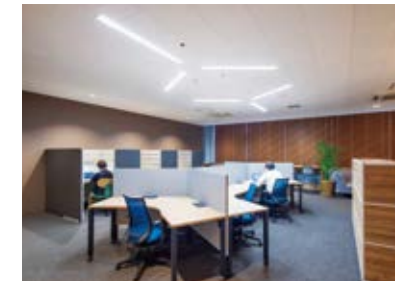
※照明・音響・映像・ブラインドなどの設備はクラウドで制御し、オフィスワーカーや管理者が容易に設定変更可能



パナソニック エナジー株式会社 二色の浜オフィス

■オフィス移転工事

所在地 / 大阪府貝塚市二色南町
事業主 / パナソニック エナジー株式会社
設計・施工 / パナソニックEWエンジニアリング株式会社
設計協力 / コクヨ株式会社
竣工 / 2023年9月



集中エリアでは、[活性:ダウンライトのみ4000K、水音]と[リラックス:ベースライトのみ5000K、鳥の声]が90分おきに切り替わる。左は[リラックス]右が[退社推進:ベースライト2700K+ダウンライト4000K、無音]



会議音声などの音が出るWEBエリアは集中エリアの対角線上に配置



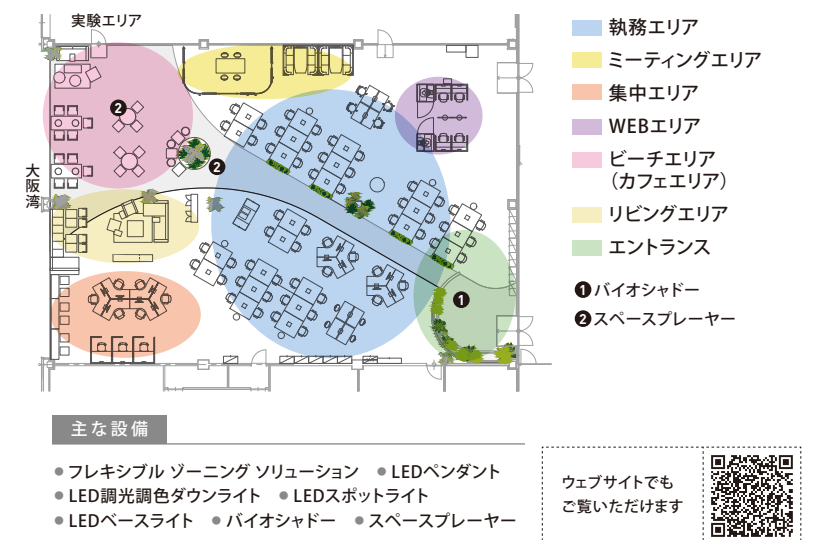
可動壁で個室にもできるミーティングエリア[リラックス:3500K、鳥の声]



光が降り注ぐ入江をイメージしたエントランス。床面のバイオシャドーの映像は天候と運動している



大阪湾が一望できるビーチエリアは、リラックスした雰囲気です。打ち合わせやランチに利用可能



パナソニック汐留美術館



リニューアル後、最初の「ジョルジュ・ルオー ―かたち、色、ハーモニー―」展（2023年）では、塗り替えられた白い壁を活かすとともに、意匠的に段差が設けられた壁の影が出ないように、スポットライトで作品が照らし出された



神坂雪佳「杜若図屏風」(大正末～昭和初期：個人蔵) 金色の豪華さを出しながら、杜若の印象を薄れさせずにシャープさを立たせ、作品本来の風合いが引き立つような光が用いられた。「つながる琳派スピリット 神坂雪佳」展（2022年）監修：細見美術館

美術館内「ルオー・ギャラリー」(2023年)



世界で唯一ルオーの名前を冠した展示室「ルオー・ギャラリー」。特許技術の反射板で配光制御された均斉度の高い展示ケース(左)と開閉式でメンテナンスが容易になった特注光天井照明器具



2700～6500Kの調色が可能な高演色LEDで各色調を忠実に再現

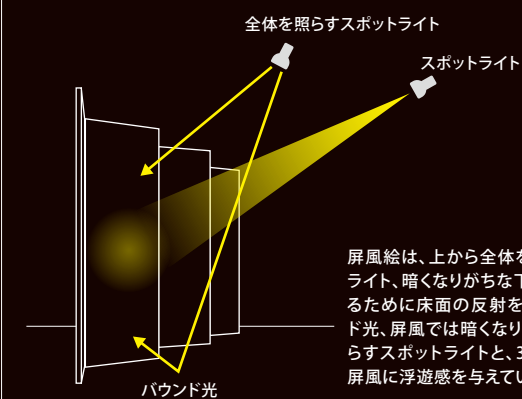


直感操作が可能なタブレットシステム



左：渡辺始興「白象図屏風」(江戸中期)と右：中村芳中「白梅小禽図屏風」(江戸後期)では微妙に金色が異なるため、色温度を変えたスポットライトが用いられた(所蔵：細見美術館)

「白象図屏風」を照らす3つの光



屏風絵は、上から全体を照らすスポットライト、暗くなりがちな下側を明るくさせるために床面の反射を利用したバウンド光、屏風では暗くなりちな中央を照らすスポットライトと、3つの光を用い、屏風に浮遊感を与えている。

美術館・博物館照明の技術と手法の粋を極めた空間

社会貢献事業の一環として開館し、「ルオーを中心とした美術」「建築・住まい」「工芸・デザイン」をテーマに企画展を開催しているパナソニック汐留美術館が2023年4月に20周年を迎えた。これを機に展示室の床・壁や照明設備もリニューアルされた。

当美術館は約100坪という限られた広さを活かして親密感のある空間を創出。企画展にあたっては、毎回、個性的な展示空間をデザインし、新たに展示ケースを製作することもある。とくに照明器具メーカーでもあるので、作品が本来持っている色や質感、マティエールをできるだけ忠実に引き出すために照明器具を選定し、照明手法にも工夫を凝らしている。

一例として、「開館20周年記念展 ジョルジュ・ルオー」では、ルオーが自身の芸術を語る際に繰り返した言葉「かたち、色、ハーモニー」をキーワードに手紙や詩なども含め、代表作を展示。照明計画では、リニューアルした白い壁を活かすため、配光を変えられる特注ウォールウォッシュとスポットライトの光によって生み出される陰影を効果的に利用。各ゾーンはテーマに分けて章立てで空間構成し、異なる照明手法を用いた。また、2022年10月に開催した「つながる琳派スピリット 神坂雪佳」では、作品保存の観点から展示照度が50 lxと暗い空間が求められたため、鑑賞者に暗さを感じさせないように、入口から徐々に空間照度を落としていき、暗さに目が慣れた段階で作品が目に入るように計画。琳派を代表する金色と銀色を際立たせるため、色温度が異なる多数のスポットライトを一つの絵画に用いることにより、作品が持つ魅力を引き出した。

当美術館はルオーの作品約260点を収蔵していることも特徴で、所蔵作品を常設展示する「ルオー・ギャラリー」を併設。ここもリニューアルし、展示ケースに特注反射板方式LED照明器具を採用。天井には調光調色が可能な特注光天井照明器具を配置している。

さらに、日本における美術館照明の質向上に尽力すべく、美術館学芸員を対象とした照明研究会も定期的に開催している。

20th Anniversary
Panasonic Shiodome Museum of Art
パナソニック 汐留美術館

東京都港区東新橋1-5-1
パナソニック東京汐留ビル4階



帝国ホテル・ライト館

近代建築の巨匠、F・L・ライトの幾何学模様と光をまとったホテル

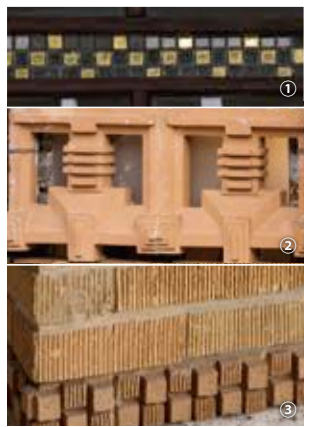
帝国ホテル・ライト館は近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライトの設計で大正12(1923)年竣工。美しい装飾で「東洋の宝石」と称された。営業停止後、中央玄関部分のみが愛知県犬山市の博物館明治村へ移築されて昭和60(1985)年から公開。国登録有形文化財。



大谷石などを駆使して飾られた帝国ホテル・ライト館の中央玄関部分。近づくにつれ多様な彫刻や、長手方向の目地を目立たせて水平を強調したすだれ煉瓦が目を楽しませる。



車寄せの上にある水玉のような彫刻。



外観の装飾。①スタンドグラス②透かしテラコッタ③すだれ煉瓦(オリジナル)



軒の銅板を通った日光は館内で光の模様を描く。



フロントの天井は低い(写真右)。階段を上ってロビーに出ると開放的な吹き抜けになり、変化が際立つ。創建当初、天井は白色にきらきらと輝いていた。



「光の籠柱」。透かし彫りから照明の光がもれる。メンテナンスの際は、つるべのように紐を引き開口部まで照明器具を移動させる仕組み。



3層吹き抜けになったロビー。3階の木製スクリーンから差し込む外光がフロア中央に木漏れ日のような美しい形を映す。かつては館内の至る所に盆栽などの植物が飾られていた。



①柱と壁泉の間にある数段の小階段を上ると広いラウンジに出る。②階段裏は細密なデザインの銅板で飾られている。③中2階のラウンジ。左右に婦人用、紳士用が分かれていた。



2階東ギャラリー。ロビーからラウンジ、ティールベコニーのフロアを経てここに着く。



「孔雀の羽」と呼ばれる大谷石の大きなブラケットは見る人を圧倒する美しさ。

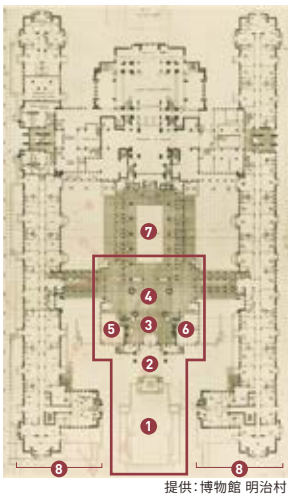


ロビーでは、ライトがデザインを手掛けた照明器具が使われている。

帝国ホテルは、増加する訪日客向けの迎賓館の役割を担って明治23(1890)年に創業。その2代目本館がライト館である。F・L・ライトは、幾何学模様を彫刻した大谷石や柳引き文様のすだれ煉瓦、透かしテラコッタなどを用いて建物の内外をくまなく装飾し、華麗な建物を造り上げた。なかでもロビー四隅に配された「光の籠柱」は、装飾内部に照明を仕込み、行灯を思わせる光で来館者を魅了する。ライトは日本文化に敬意を払っていたとされ、シカゴ万博では鳳凰殿を見て日本建築に感銘を受けたという。中央玄関の外観は鳳凰殿同様に

ほぼ左右対称であり、銅板葺き屋根は斜めから見ると瓦屋根、玄関横の9本の柱は格子のようで日本建築を連想させるともいわれる。館内では天井高を抑えたフロントからロビーへ進むと一気に吹き抜けが広がるが、この抑制と開放の感覚は茶室のにじり口に近いと考えられている。吹き抜けを囲むフロアにはスキップフロアがあり、柱を回る小階段や壁泉で飾られた小階段が上階へと誘う。階段付近はやや暗く、上り切ると天井が高く明るい中2階へ出る。そして、再び数段の階段を上って2階へ至る。しっかりした壁はないが階下からフロアは一望できず、

移動することで見えてくるフロアや、流動的につながる空間が印象的である。ライト館は南・北翼の客室棟はもとより、ダイニングや劇場、宴会場も擁するホテルとして竣工した。開業披露の日、関東大震災に見舞われたが、低層の建物だったことなどから倒壊は免れている。館前の池の水で従業員が消火を試みたことも被害を抑える一助になった。ライトは竣工前に離日、その後を弟子の遠藤新に委ねたが、日本に残した貴重な建物は保存運動を経て、一部ではあるが博物館明治村に移築されて大切に受け継がれている。



- 1F平面図(竣工当初)
- ① 池
 - ② 車寄せ
 - ③ フロント
 - ④ ロビー
 - ⑤ 婦人用ラウンジ
 - ⑥ 紳士用ラウンジ
 - ⑦ メインダイニング
 - ⑧ 客室棟
- 博物館明治村への移築部分



残されていたファブリックとAIの機能でモノクロから色調を再現した客室の写真。中央の柱前は暖房兼照明装置。壁の菱形模様は換気装置でもあった。

特別展 帝国ホテル・ライト館竣工100年記念
東洋の宝石
博物館明治村にて開催中
2023年12月17日(日)まで

用語説明

【大谷石】宇都宮市大谷町付近から産出する石材。凝灰岩の一種で淡青緑色。軟らかく加工が容易。

院鳳凰堂がモデル。【壁泉(へきせん)】壁面に彫刻などで飾った口を設け、水を噴き出すようにした噴水。

【シカゴ万博】1893年、米国シカゴで開催された万国博覧会。

【鳳凰殿】シカゴ万博の日本館。京都府にある国宝の平等装飾的に造られる場合が多い。

愛知県犬山市字内山1番地／協力：博物館 明治村

開館20周年記念展/帝国ホテル二代目本館100周年
フランク・ロイド・ライト
世界を結ぶ建築
2024年1月11日(木)～3月10日(日)
パナソニック 汐留美術館



パナソニックの空間ソリューション WEBサイト

<https://www2.panasonic.biz/jp/solution/>



パナソニック ショールーム

<https://sumai.panasonic.jp/sr/>



札幌

〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎ 0570-087-315

仙台

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング内
☎ 0570-087-315

東京 (汐留)

〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号
パナソニック東京汐留ビルB2F
☎ 0570-087-315

横浜

〒221-0056 横浜市神奈川区金港町2番6号 横浜プラザビル1F
☎ 0570-087-315

名古屋

〒450-8611 名古屋市中村区駅南2丁目7番55号
☎ 0570-087-315

大阪

〒540-6303 大阪市中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル3F
☎ 0570-087-118

広島

〒730-8577 広島市中区中町7番1号 パナソニック広島中町ビル2F
☎ 0570-087-118

福岡

〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎ 0570-087-118

パナソニックのバーチャルショールーム

<https://sumai.panasonic.jp/websr/>



パナソニック エコシステムズ ショールーム

<https://panasonic.co.jp/hvac/pes/showroom/>

〒486-8522 愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番



パナソニックセンター東京

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/center-tokyo.html>

〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5番1号
☎ 03-3599-2600



カスタマーエクスペリエンスセンター

(パナソニック コネクト株式会社)

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/about/who-we-are/experience/customer-experience-center>

〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号
住友不動産汐留浜離宮ビル
☎ 0120-878-410



※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。
ショールームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

お問い合わせ

☎ (06) 6908-1131・大代表



パナソニックのソリューションに関するお問い合わせはこちら➡

<https://www2.panasonic.biz/jp/support/confirmation.html?solution>



継続能力開発 (CPD) 自習型認定研修

・ 設 問 ・

次のうち誤っているものはどれか。

- PPPとは、官民連携を指すPublic Private Partnershipの略語である。
- 岩手県紫波町に「オガール」という官民連携プロジェクトがある。
- 現段階では、上方光束率0%の照明器具は存在していない。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記WEBサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発 (CPD) の「自習型認定研修」教材として認定されています。

皆様のご意見をお聞かせください

皆様のお役に立てるよう、『建築設計REPORT』の編集内容をより充実させていきたいと考えています。下記サイトにアクセスいただき、5問程度のアンケートにご協力ください。



抽選で10名様に大島芳彦氏が執筆された、『なぜ 僕は今、リノベーションを考えるのか』を差し上げます。

【応募締切】2024年1月31日 (水)

アンケートはこちら➡

<https://www2.panasonic.biz/jp/solution/report/archi/qe/>

